

平成 21 年度決算の概要

【資金収支計算書】

(1)収入の部

納付金収入は、学生・生徒数が前年度と比べ減少したため、予算比 50 百万円、前年度比 327 百万円減少の 4,115 百万円となりました。

手数料収入は、志願者数減少により入学検定料収入が予算比 10 百万円、前年度比 5 百万円減少の 74 百万円となりました。

補助金収入は、国・大阪府からの補助金の増加により予算比 162 百万円、前年度比 70 百万円増加の 694 百万円となりました。

資産運用収入は、デフレスパイラルに陥った国内経済の長期低迷による預金利率の低下及び納付金収入等の減少により予算比 3 百万円減少、前年度比 2 百万円減少の 71 百万円となりました。

事業収入は、補助活動事業収入の増加により予算比 9 百万円の増加となりましたが、受託事業収入の減少で前年度比 8 百万円減少の 64 百万円となりました。

雑収入は、退職金財団からの交付金収入により予算比 51 百万円、前年度比 7 百万円増加の 81 百万円となりました。

前受金収入は、学生・生徒・園児の入学者数の減少により予算比 89 百万円、前年度比 40 百万円減少の 747 百万円となりました。

収入全体では予算比 31 百万円増加、前年度比 178 百万円減少の 5,066 百万円となりました。

(2)支出の部

学園全体の教職員数は教育力向上のため専任教職員については退職者に対する補充とし、前年度比増減なし、兼務教員は 1 名増加。勤続年数の長い役員・教職員の予算計上外の退職により退職金支出が、予算比 97 百万円増加したため、人件費全体として予算比 41 百万円の増加となりましたが、前年度比では 38 百万円減少の 3,092 百万円となりました。

経費については、各部門における節減効果が大きく予算比 68 百万円の減少となりました。前年比についても、教育研究経費支出、管理経費支出共に節減効果により 127 百万円の支出減となり、教育研究経費、管理経費合計で 1,228 百万円となりました。

施設、設備関係支出では、駐車場用地購入、大学 3 号館建設、校舎内外の改修、備品の更新等、教育環境充実の為の投資を積極的に実施しましたが、大学新校舎建設の契約が 22 年度になったこともあり、予算比 365 百万円の減少、前年度比 144 百万円増加の 510 百万円となりました。

(3)繰越支払資金

上記の結果、法人全体として期中の支払資金は前年度より 122 百万円増加の 6,974 百万円となりました。

【消費収支計算書】

(1)消費収入の部

資金収支計算書・収入の部と同様、納付金・手数料・資産運用の減少、補助金・事業収入の増加等の要因により帰属収入の合計は予算比 174 百万円増加、前年度比 277 百万円減少の 5,110 百万円となりました。

大学 3 号館新築等による基本金への組入が 356 百万円あり、消費収入合計は予算比 693 百万円の増収、前年度比 505 百万円減収の 4,754 百万円となりました。

(2)消費支出の部

資金収支計算書・支出の部と同様、人件費については予算比 10 百万円の増加、前年度比 26 百万円減少の 3,083 百万円となりました。経費については削減効果により予算比 68 百万円の減少、前年度比 129 百万円減少の 1,228 百万円となり、消費支出合計では予算比 35 百万円減少、前年度比 132 百万円減少の 4,806 百万円となりました。

(3)消費収支差額等

当年度消費収支差額は予算では 780 百万円の支出超過でしたが、経費の節減と大学新校舎建築契約が翌年度になったことにより大幅に収支見込が変わり、実績は 52 百万円の支出超過となり大幅に収支が改善され、翌年度繰越消費収入超過額は 2,063 百万円となりました。

なお、帰属収支差額は 304 百万円の収入超過となり引き続き健全財政を維持しました。

◆◆◆主要財務比率の経年比較表◆◆◆

	算式(×100)	H20 年度 (決算)	H21 年度 (決算)	前年度比	(ご参考) 全国平均※ (H20)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	57.7%	60.3%	2.6%	52.8%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{納付金}}$	70.0%	74.9%	4.9%	72.3%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	24.3%	24.5%	0.2%	31.0%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	9.5%	8.9%	△0.6%	9.9%
帰属収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	91.7%	94.0%	2.3%	99.8%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	93.9%	101.1%	7.2%	115.0%
学生・生徒等納付金 比率	$\frac{\text{納付金}}{\text{帰属収入}}$	82.5%	80.5%	△2.0%	73.0%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	11.6%	13.6%	2.0%	12.5%
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{消費支出}}$	9.4%	9.9%	0.5%	10.9%

※大学法人(医療系法人を除く)全国平均「平成 21 年度版 今日私学財政」より

【貸借対照表】

(1)資産の部

固定資産のうち土地は駐車場用地の購入、建物は大学 3 号館新築工事等がありました。また、大学新校舎建設の設計着手金等を建設仮勘定として計上。その他の固定資産として減価償却引当特定預金が増加し、固定資産合計では 132 百万円の増加となりました。

流動資産の増加は、現金預金の増加によるものです。

以上の要因により、資産総額は前期末比 262 百万円増加の 23,789 百万円となりました。

(2)負債の部

退職給与引当金及び前受金の減少により、負債総額は前期末比 42 百万円の減少。

(3)基本金の部

大学 3 号館新築、駐車場用地購入等による 1 号基本金組入に対し、備品の過年度簿外処理分の減額もあり、全体では 351 百万円の純増となります。

(4)消費収支差額の部

消費収支計算書の部で述べたように、翌年度繰越消費収入超過額は、前期末比 47 百万円減少し、2,063 百万円。なお純資産は前期末比 304 百万円増加の 21,858 百万円となりました。